

南小国町 福祉教育 情報ガイド



平成30年3月



社会福祉法人 南小国町社会福祉協議会

南小国町ボランティア連絡協議会

目 次

福祉教育ってなに??	1
福祉教育のねらい.....	2
何で社会福祉協議会が福祉教育を行っているの??	3
実践事例の紹介	4
福祉教育についてどこに相談すればいいの	17
社会福祉協議会への相談から実施までの流れ	18
授業の中で取り入れられる内容（例）	21
福祉教育への協力者一覧	22

福祉教育ってなに??

『福祉』とは??

『福祉』とは、『幸せ』や『ゆたかさ』を意味する言葉です。

そして『福祉』とは『ふだんの 暮らしの しあわせ』を実現させる営みであるといわれることがあります。しかし、何を幸せと思うのかは、人によって様々な感じ方があり、だれもが『自分の幸せ』を願っています。だからこそ、『他の人の幸せ』も大切にすることが求められます。

『福祉』とは、自分のことだけでなく、周りの人も大切に思い、一人一人それぞれの考え方、生き方を尊重し、『ともに生きる力』を培うことであるといえるでしょう。

『ともに学び、ともに生きる』理念に基づいた教育活動

年少者も高齢者も、障がいのある人もない人も、国籍や言葉の異なる人も、すべての人々がこの社会の中で、誇りをもって、心豊かで幸せな生活を送ることができるようにすることが、福祉教育の目的です。

- ◆福祉教育は全ての人々が『かけがえのない存在』として尊ばれ、差別や排除されたりすることなく社会生活の中でともに支え合い、一人ひとりが生きる喜びを感じることができるよう、【ともに生きる力】を育むことを目標とした教育でもあります。
- ◆人は一人ひとりみんな違うということ、そして、違うがゆえに一人ひとりが尊重されなければならないという理念に立って、【違うことは素晴らしい】という違いを豊かにした教育活動を推進していかなければなりません。
- ◆それだけに、学校が地域社会と連携しながら、子どもたちが互いに人間的に成長しあえるような福祉教育を進めていくことは重要であるといえます。子どもから大人まで、地域住民すべての人が、障がい者や高齢者などとの出会いやふれあい体験などを通じて、生命の尊厳や人間の生き方について学び、それぞれの立場や心情を思いやり、互いに支えあうことの素晴らしさにふれるような教育活動を創造していくことが重要です。

福祉教育のねらい！

地域の中にある学びの場

福祉教育は、身の回りの人々や地域との関わりをとおして、どのような福祉課題があるかを学び、その課題を解決する方法を考え、解決のために行動する力を養うことを目的としています。

今の子どもたちは、地域の大人とかかわる機会が少なくなっています。身近な地域に暮らす、障がいのある人や高齢者を含めたさまざまな人と関わり、学ぶことを通して、子どもたちは**コミュニケーションの力**を高め、多様な生き方にふれ、**命の大切さ**や**思いやりの心**、相手を理解しようとする豊かな心をしっかりと育みます。

福祉教育を通して育まれる力

また、出会いや関わりを通して、自分と違う立場の人と認め合い、人の気持ちに共感できる力や自分の考えを表現する力、考えを共有し実行につなげていく力等の【ともに生きる力】をつけていきます。

さらに子どもたちが地域の中で交流や活動をすることで地域の人から感謝されたり、大切に思われていることを実感でき、自己肯定感や、自己有用感を積み重ねていくことができます。

子どもが変わる！大人が変わる！地域が変わる！

こうした子どもたち一人ひとりの【学び】や【育ちに】つながるだけでなく、クラスや地域の中においても、お互いの違いを認め合い排除しない仲間づくりへとつながっていきます。

子どもたちが学びを通して変わることで、大人や地域もともに学び、変わることができると考えています。



何で**社会福祉協議会**が福祉教育を行っているの??

社会福祉協議会は、
社会福祉法という法律のなかで

社会福祉法 第109条（抜粋）

次に掲げる事業を行うことにより地域福祉の推進を図ることを目的とする団体

- 一 社会福祉を目的とする事業の企画及び実施
- 二 社会福祉に関する活動への住民の参加のための援助
- 三 社会福祉を目的とする事業に関する調査、普及、宣伝、
連絡、調整及び助成
- 四 前三号に掲げる事業のほか、社会福祉を目的とする事業
の健全な発達を図るために必要な事業

と定められています。

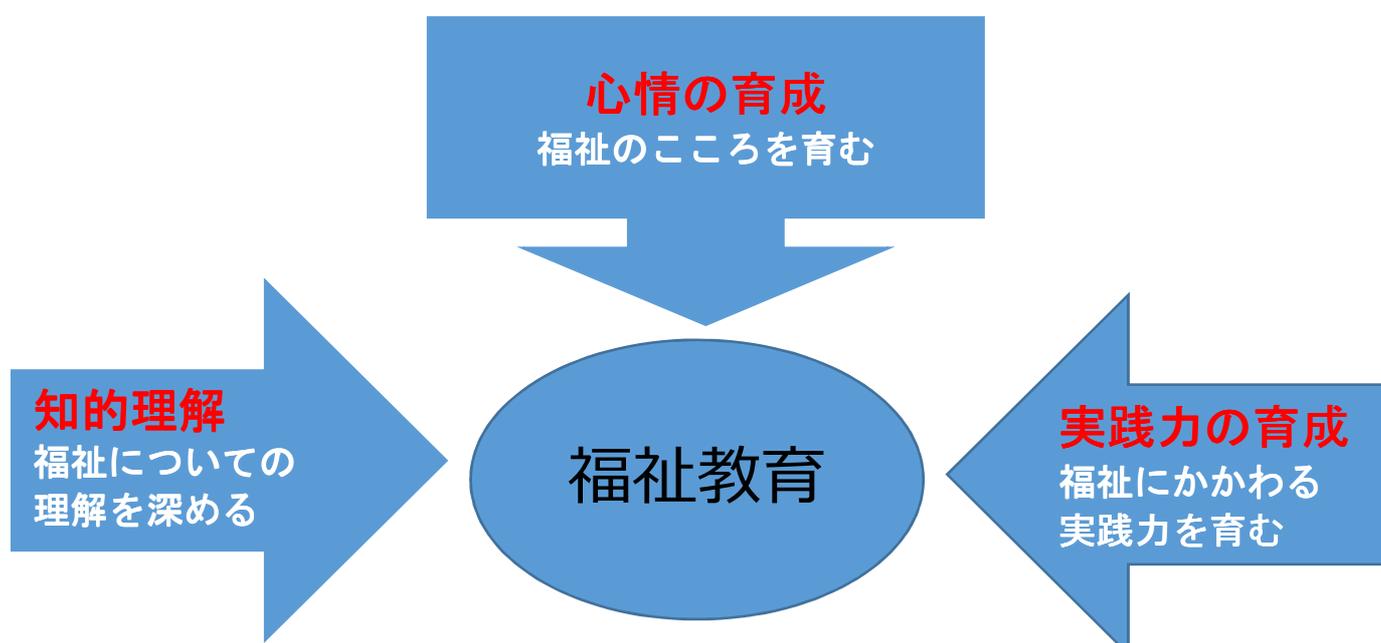
そのため、**社会福祉協議会**は、**福祉教育**を含めた、
地域福祉の推進を図るために色々な事業を展開
しています。

実践事例

子どもたちへの福祉教育



小学校、中学校の担当教師との連絡会議を年に2回開催しております。連絡会議の際に、新しく担当となった先生との顔合わせや、福祉教育について理解を深めていただいております。



実践事例

子どもたちへの福祉教育

疑似体験学習（学年に応じた体験的な学習）
福祉についての理解を深める（知的理解）



＝高齢者疑似体験＝市原小学校4年生

＝目的・効果＝

① 高齢者の心を推察する

疑似体験セットをつけることによって、手足が上げにくかったり屈伸がきかなくなったりします。耳が遠く、白内障のためかすんで見えにくいといった身体機能の低下を体感することを通して、高齢者の心理状態を推測し高齢者を理解したり気持ちを汲み取る。

② 介助者の役割を理解する

実際に自分が【介護者】を体験してみると、介護される側、介護する側にも個人差があることに気づく。介護者として、どうサポートするのが適切なのを見つけるきっかけとなる。

③ バリアフリーの環境づくりを理解する

疑似体験を通して【高い位置にある時計は見えにくい】などといったことに気づくことができる。自分の身の回りにある、高齢者に優しい商品や、サービスを見つけるきっかけとなる。

実践事例

子どもたちへの福祉教育

疑似体験学習(学年に応じた体験的な学習)

＝車いす学習＝中原小学校全校児童



＝目的・効果＝

① 車いすについて、使い方、介助の仕方を理解する

どういった人が車いすを使うのか、なぜ車いすを使うのかを考えてもらい、使い方、介助の仕方を理解する。体験することにより、適切な介助の仕方ができるきっかけとなる。

② 車いすを使っている方の気持ちを理解する

車いすを体験することで、不便なことや、困りごとに気づくきっかけとなる。

③ バリアフリー環境づくりを理解する

車いすを使っている方たちは、どうしたら困らずに生活ができるかを考える。社会にあるバリアフリー環境づくりを伝えることで、理解を深める。

実践事例

子どもたちへの福祉教育

アイマスク体験(視覚障がいへの理解)

福祉についての理解を深める(知的理解)

中原小学校



＝目的・効果＝

① 視覚障がいへの理解を深める

視覚障がい者の気持ちや状態を知ることができる。「見えなくて不自由」、「見えなくて怖い」という気持ちを学ぶのではなく、視覚以外から得られる情報を活用する体験が大切となる。視覚以外の情報を活用することで、視覚障がいがあっても様々なことができる気づききっかけとなる。また、体験することで支援の方法も理解することができる。

＝アイマスク体験学習内容(例)＝

じゃんけん・財布から指定された金額を取り出す・折り紙を折る・白杖を使用した歩行体験など。

実践事例

子どもたちへの福祉教育

聴覚障がい疑似体験（聴覚障がいへの理解）

福祉についての理解を深める（知的理解）

中原小学校



＝目的・効果＝

①聴覚障がいへの理解を深める

聴覚障がい者の気持ちや状態を知ることができる。「聞こえなくて不自由」、「聞こえなくて怖い」という気持ちを学ぶのではなく、聴覚以外から得られる情報を活用する体験が大切となる。聴覚以外の情報を活用することで、聴覚障がいがあっても様々なことができる気づききっかけとなる。また、体験することで支援の方法も理解することができる。

＝聴覚障がい疑似体験学習内容(例)＝

耳栓・イヤーマフを着用しグループの中でテーマ（好きな動物・好きな食べ物など）を決めて会話をしてもらおう。その中で、どうしたら話が聞きやすかったかをグループ内で考える。実際に体験することで、気づくことができ聴覚障がい者への理解を深めることができる。

実践事例

子どもたちへの福祉教育

疑似体験学習後には、福祉施設利用者との交流
実践力の育成(福祉にかかわる実践力を育む)

市原小学校4年生



＝目的・効果＝

① **高齢者についての理解を深める**

実際に高齢者との交流を行うことで、高齢者についてより深く理解することのきっかけとなる。

② **世代間交流**

少子高齢化や核家族、地域との結びつきの低下が要因となり、世代間交流の機会が減少しつつある。福祉施設の利用者との交流会を通じて、世代間交流のきっかけとなる。

③ **福祉にかかわる実践力の育成**

福祉施設にて高齢者と交流をすることにより、福祉の現場を見る、そして感じることで、福祉への興味や実践力の育成のきっかけとなる。

実践事例

住民参加による福祉教育

小学校4年生の国語の【一つの花】の先生として佐藤英男氏から、食べ物の大切さ、命の大切さ、みんな仲良く助け合うことの大切さを話していただきました。

心を育む 心情の育成



＝目的・効果＝

① 当事者から話を聞くことで理解を深める

実際に体験をした方の話を聞くことにより教科内容の理解を深めることができ、教科書では知ることができなかった、南小国町の当時の様子を知ることができる。

② 共に生きる力・コミュニケーションの力を高める

地域に暮らすさまざまな方々と、出会いや関わりを通して、人との違いを認め、共感できる力や地域の人から大切に思われることを実感できるなど、子どもたちはコミュニケーションの力を高めることができる。

③ 地域の方々の活躍の場の創出

地域住民が小学校等の授業等に、培ってきた知識や技術、経験を発揮する場となるとともに、活動をとおして自らの生きがいや、人と人とのつながりを築いていくことにもつながり、生涯学習の機会になります。

実践事例

住民参加による福祉教育

小学校4年生の国語【だれもがわかりあえるように】の先生として河津サワ子氏が、点字の先生として子ども達に点字を教えました。

福祉についての理解を深める(知的理解)



＝目的・効果＝

① 視覚障がいがある方に対する理解

なぜ視覚障がい者になったのか、その経緯などを説明し視覚障がい者への理解を深める。

② 視覚障がい者の方への福祉サービスの理解

点字や、白杖などの道具の紹介・体験することで、様々な福祉サービスがあることを理解することができる。

③ 発展・次の行動への期待

学習したことをふりかえり・共有することで、発展・次の行動への期待が出来る。（例：ろう学校との交流会、点字での文通など）

実践事例

市原小学校ふれあい交流



昔の玩具づくり・遊びの先生として



福祉の心を育む【心情の育成】



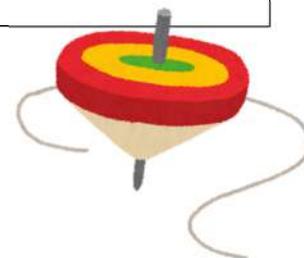
＝目的・効果＝

① **共に生きる力・コミュニケーションの力を高める**

地域に暮らすさまざまな方々と、出会いや関わりを通して、人との違いを認め、共感できる力や地域の人から大切に思われることを実感できるなど、子どもたちはコミュニケーションの力を高めることができる。

② **昔の玩具や、遊びへの理解、社会の授業として**

当時の子どもの遊びを実際に体験することで、当時の子どもたちの様子に興味を持ち理解を深めることができる。



実践事例

中学生への福祉教育

ボランティア活動(子どもデイサービス、晴ればれりんどうボランティアの日)

実践力の育成【福祉にかかわる実践力を育む】



＝目的・効果＝

① **ボランティア活動への参加**

子どもデイサービスや、晴ればれりんどうボランティアの日等に参加することにより、ボランティアの活動参加のきっかけとなる。

② **次世代の人材育成**

子どもデイサービスでのボランティア活動を通し、福祉への関心を持つきっかけとなる。

③ **多世代交流・共生教育**

子ども達や、多くのボランティア(高校生ボランティア・子育てボランティア・民生委員児童委など)との交流にて、共生共育のきっかけとなる。

実践事例

高校生への福祉教育

小国郷という地域を基盤に、生徒が自主的に様々な福祉・ボランティア活動に参加

福祉についての理解・実践力の育成



手話学習会(聴覚障がいの理解)

＝目的・効果＝

① **福祉・ボランティア体験を通しての福祉への理解と実践力の涵養**

ホームレス支援、手話学習、福祉施設の夏祭りの応援などの福祉・ボランティア体験リストから関心のある取り組みへ、自ら進んで参加することで、更に福祉への理解と実践する力を育みます。

② **多世代交流・共生共育**

地域に直接参加することで普段関わることのできない、地域住民と交流ができ、コミュニケーション力の向上につながり、社会での連帯感を涵養します。

③ **福祉への理解向上**

様々な体験や学習をとおして、地域課題に気づき福祉への理解を深めることができる。

実践事例

高校生への福祉教育

災害対応ゲーム【クロスロード】

自分とは異なる意見・価値観の存在への気づき

小国高校



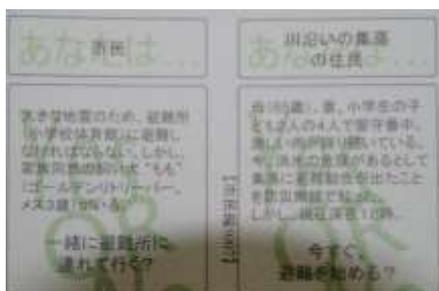
＝目的・効果＝

① 災害への対応、価値観の共有

災害対応を自らの問題として考え、また、様々な意見や価値観を参加者同士で共有すること。災害対応においては、必ずしも正解があるとは限らず、また、過去の事例が常に正解ではないこともある。それぞれの災害対応の場面で、誰もが誠実に対応すること、また、そのためには災害が起こる前から考えておくことが重要であることに気づく。

＝クロスロードとは？＝

カードを用いたゲーム式による防災教材。ゲームの参加者は、カードに書かれた事例を自らの問題として考え、YESかNOかで自分の考えを示すとともに、参加者同士が意見交換を行いながら進めていくゲーム。



実践事例

高校生・中学生ボランティア表彰

高校、中学校生活3年間の中でボランティア活動した生徒へ表彰をしています。



Q. 福祉教育についてどこに相談すれば良いの？

A. 社会福祉協議会にご相談下さい

社会福祉協議会には、福祉教育を担当している職員【コーディネーター】がいます。どんな目的でどのようなことをしたいのか、具体的な計画をたてる前からでもかまいません。社会福祉協議会に相談してみてください。また、熊本県社会福祉協議会にもボランティアセンターがあり、様々な教材の貸し出しを行っております。

社会福祉協議会が対応できるもの【一例】

○福祉教育に関する企画から実施までの相談

○社会福祉協議会からの派遣

福祉学習・講演、ボランティア講座、車いす体験、疑似体験など

○社会資源の情報提供、紹介

社会福祉施設、障がい者共同作業所、自治会などでの【ふれあいサロン】、ビデオ教材など



疑似体験学習



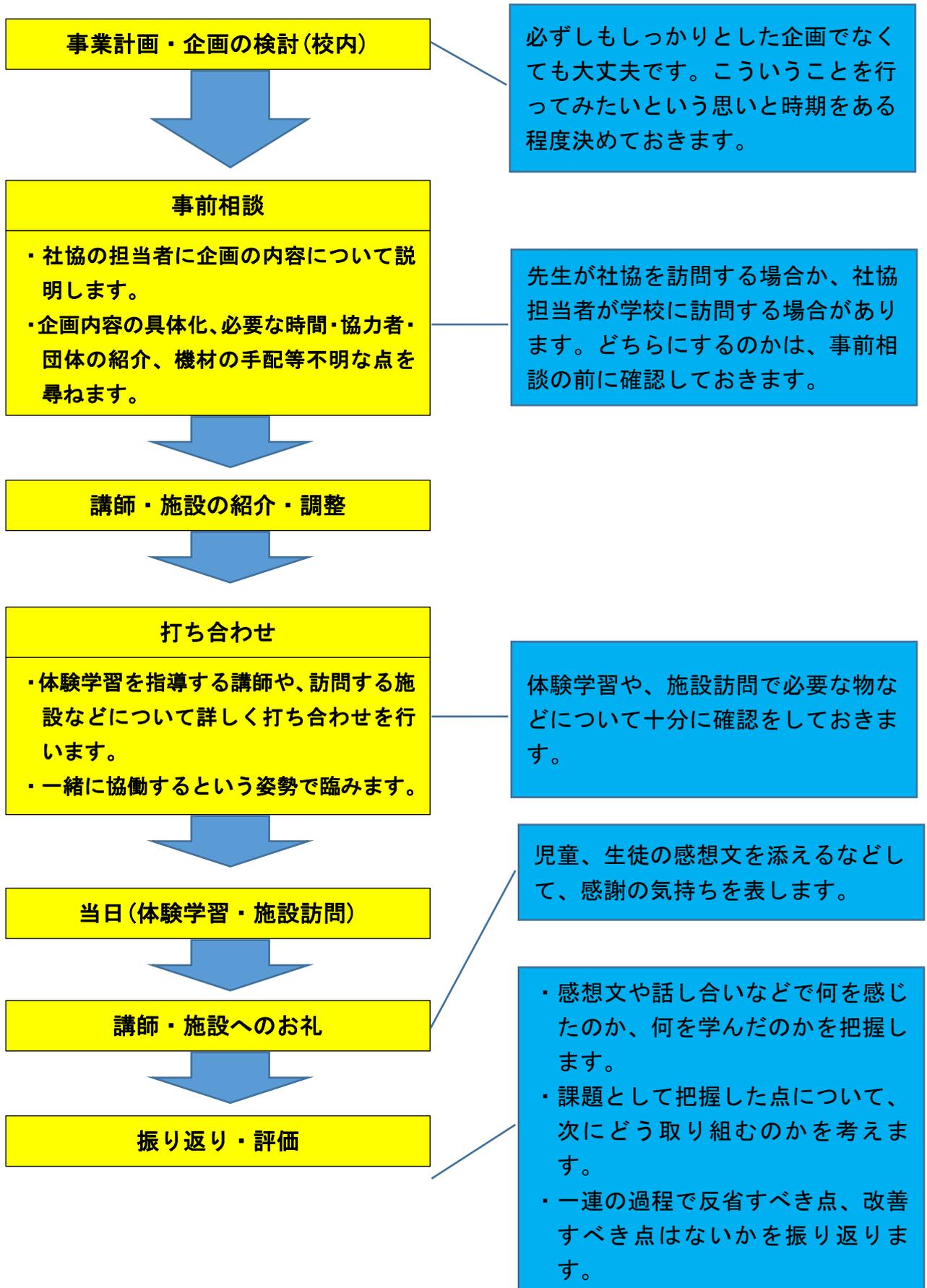
車いす体験学習



ボランティア学習

この他にも、福祉教育として取り組みたい内容がございましたら、お気軽にご相談ください。

社会福祉協議会への相談から実施までの流れ（例）



体験学習当日の流れ(例)

＝車いす体験学習＝(2授業分)

社協職員到着・準備

授業が始まる約30分前に学校へ行き
学習会の準備を行います。

体験学習(1授業)

- ・車いすについて質問形式で進めていく。
- ・どういったことが要因で足が不自由になるのか説明を行う。
- ・障がいについての理解を深める。
- ・車いすの使い方、介助の仕方の説明を行う。
- ・車いす体験・介助
【坂道の上がり下り・カラーコーンジグザグ走行など】
- ・ノートへ感想を書く。



体験学習(2授業)

- ・学校の中を車いすで移動・介助
【手洗いや、教室への出入りの体験】
- ・ノートへ感想を書く。
- ・まとめ【児童から体験学習の感想の発表】



【ポイント】

ふだんの生活を考える・気持ちを考える

(一日すわっていると？ 助けてもらったときの気持ち、助けてあげたときの気持ち、助けをたのむ時の気持ちなど)工夫は？ こんな時にどうすればいいのか？ 何があればいいのか？



体験学習当日の流れ(例)

＝福祉施設訪問体験学習＝(2授業分)

社協職員到着・準備

施設訪問前の学習(1授業)

- ・ 学習の目的の説明
- ・ 町内の福祉施設の紹介
- ・ りんどう荘について
- ・ りんどう荘を利用する高齢者について
- ・ 認知症について
- ・ 振り返り、感想

【ポイント】

- ・ 町内の福祉施設を知る。
- ・ 施設利用者(認知症の方)との接し方の基本を知る。認知症への理解を深める。
- ・ りんどう荘訪問前の準備について

施設訪問(2授業)

- ・ 交流【自己紹介・インタビュー・肩もみ・握手など】
- ・ 出し物・校歌など

【ポイント】

利用者の目線で、ゆっくり、はっきりと話す。
人生の大先輩であるお年寄りを敬う気持ちを忘れずに
いろんなことをインタビューで聞き発見する(すごいこと、自分との共通点など)
訪問するだけで喜んでくれる。中には、涙を流す方もいて、つたない発表でも一生懸命にやる
気持ちは言葉がなくても伝わるということを実感できる。
発表や交流で配慮することとして、以下のことを確認する。
①声は大きく、ゆっくりとわかりやすく、なるべく低い音で。
②恥ずかしがらずに、自分から進んで。
見せる物は大きく見やすく。



認知症についての学習会



福祉施設にて高齢者と交流会

授業の中で取り入れられる内容(例)

内容の中には、地域の方が活動できないものも含まれておりますが、参考としてご紹介させていただきます。まずは、ご相談ください。

教科	内容(例)
国語	読み聞かせ、点字学習、民話や方言について、戦時中のお話し、俳句、手話学習、百人一首、短歌、硬筆、詩など
算数	数や図形の不思議、数式、そろばんなど
生活	季節の草花や虫の話、生き物の飼育指導、地域の伝承遊び、むかしの遊び、農園作業(野菜などの栽培指導)、地域の祭りなど
理科	樹木観察や野鳥、昆虫観察、生き物の飼育、植物の発芽や成長、野菜などの栽培指導、季節の星座、天体観測、生物と環境など
社会	むかしの道具や生活について、文化財や年中行事、ゴミの分別やリサイクル、森林資源の動き、地域の伝統行事、戦争体験など
音楽	鍵盤ハーモニカやリコーダー、和太鼓の演奏、合唱、民謡など
図工	小刀、彫刻刀の使い方、のこぎり使い方、水彩画や油絵の観賞や指導、絵手紙など
体育	陸上競技、水泳、球技、フォークダンス、レクダンスなど
保健	ケガの防止や応急手当、病気の予防、アルコールの害、喫煙の話など
家庭	ミシン操作の指導、運針、調理実習補佐など
道徳	仕事や人生における体験談など
総合的な学習の時間	車いすやアイマスク体験、点字や手話、リサイクルについて、ゴミと環境、ボランティア体験、地域の歴史や文化、地域の伝承、行事、食べ物など

福祉教育への協力者一覧

【福祉施設等】

施設名	福祉教育体験例
りんどう荘福祉サービスセンター（介護施設）	介護体験、施設利用者との交流など
グループホーム森園（入所施設）	介護体験、施設利用者との交流など
福寿苑グループホーム（入所施設）	介護体験、施設利用者との交流など
特別養護老人ホーム 悠清苑（介護入所施設）	介護体験、施設利用者との交流など
南小国町立保育園（市原・中原・黒川）	保育体験、園児との交流など
熊本県立小国支援学校	生徒・児童との交流など
サポートセンター悠愛（障がい者支援施設）	施設見学など
おぐに老人保健施設（介護施設）	介護体験、施設利用者との交流など

【福祉・ボランティア団体】

グループ名	活動内容
南小国町食生活改善推進員協議会	子どものおやつ作り、料理教室、食育支援など
読み聞かせボランティア 四ツ葉のクローバー	小中学校での読み聞かせ
南小国町更生保護女性会	社会を明るくする運動（中学生への薬物乱用・非行防止キャンペーン）など
中原婦人会	まちづくりの推進
きよらパトロール隊	地域を青色回転灯で巡回パトロール
きよらの郷わくわくクラブ	子ども達の健全育成を目的に8つのクラブ活動をおこなっています
子どもに夢をはこぶ会	きらきら健康ウォーキング大会、赤い羽根街頭募金運動、クリスマスサンタクロース事業など
NPO 法人自然を愛する会	山岳行方不明者捜索ボランティア、参勤交代九州横断徒歩の旅（青少年の健全育成）など
りんどう唱歌の会	童謡唱歌の文化活動、高齢者の生きがい活動
子育てボランティア ぽっかぽ家	子どもデイサービスボランティアなど
南小国町民生委員児童委員協議会	地域住民の身近な相談役として、様々な福祉・生活問題の相談を受け、役場や福祉機関へつなぐ地域福祉の担い手
南小国町老人クラブ連合会	現在17クラブの老人クラブが加入しており、様々な健康・生きがい活動をおこなっています。
市原どげする会	地域おこしグループで年数回 小地域でのイベントを開催（お祭りなど）

【個人】※下記のような活動を協力できる方がいます。

点字指導、読み聞かせ、農業指導、戦時中のお話、自然体験、防災、子育て、健康づくり、スケッチ、絵手紙、お手玉、けん玉、交通安全、手芸、民芸、小国弁、昔の生活・道具のお話
地域の伝統行事



＝お問い合わせ・ご連絡先＝

南小国町社会福祉協議会

南小国町ボランティアセンター

(南小国町地域福祉センターりんどう荘内)

TEL : 0967-42-1501

FAX : 0967-42-1505

メール : rindouso@minami-catv.jp